

ワイルクからヒロへ

徳城様ほかヒロの皆様、二月十五日ヒロに着いて以来、満一ヶ月間いろいろ御世話に相成り望みのごとく一日も休む暇なく講演をする御縁を興へて下さったことを悦んで居ります。数々の御馳走のうち最も嬉しきことは皆さんの聴聞に骨折つて下さったことです。十五日出帆の際は皆さんが賑やかに御見送り下さったことを感謝いたします。あの夜は波は静かであつたが二人とも少しばかり酔ました。然し夕飯はうまく頂きました。マウイのラハイナに船の着いたのは零時半でした。ボートの上で見た星は美しかつた。波止場にはラハイナの東福寺ドクターが迎へに来て居られました。ワイルクよりの迎への自動車でマウイの海岸線を走りました。海上の月は美しかつた。一時半にワイルクの東福寺ドクターの家に着きました。一寸話し、ベットをしつらうてある風通しのいい三階にて安き眠りに入りました。

十六日の午前から午後にかけて武雄は今村開教師、安井新聞社長等の案内にて各方面の挨拶に出ました。その間私は殆ど終日ベットの上で休んで居りました。夕方バラのペランダに居て次の歌を得ました。

夕ぐれのペランダに煙草を吸ひをれば花の香のしめる風ふく。

ペランダの前を覆ひて青葉なすキアツプフラワーの高く匂へり。

大なるキアツプフラワーの香をしめる夕の風のなつかしきかな。

七時半からブネネの學校にて講演會が開かれました。泉開教師が司會をせられました。東福寺ドクターは一燈園の信者です。一昨年西田天香君一行五人が一ヶ月ばかり滞在せられた由です。萬事簡素にして氣持のいゝ饗應をしてくれます。

今朝もよく晴れて居りました。町田・本好二氏が來訪されました。正午から渡邊館で

各宗聯合會の歡迎會が催されました。本願寺の本好・三枝・泉・藤谷、浄土宗の今村・三上、眞言宗の鳥取、曹洞宗の美保の八開教使と東福寺ドクターとが出席されました。東福寺ドクターは吉村ドクターの依頼に依つて御世話をするに述べ、今村開教使は泉原開教使の依頼に依つて世話すると語られました。マウイはハワイ島とは凡ての方面に面目を異にした點があるやうに思ひます。何處に行くも新しいことが學ばれます。今晚はワイルクの學校で講演會が開かれます。

ヒロの方々には先日來講演聽聞にやや疲れたことと思ひます。此處廿日あまりの間静養して來月は清新の頭を以て再び講話を聽聞して下さるやう御願して置きます。皆さんに一々禮狀を差上ぐべきですが新聞紙の上で御挨拶申上ます。終りに皆さんの御健祥を念じます。

(一九三三年三月十七日ワイルクにて)

ホノルルからヒロへ

徳城さま

マウイから第二信を出すつもりだったがとても忙しくて書けなかつた。マウイの四日間は晴天つづきで東福寺ドクターは曉烏日和だと喜んで居られた。十七日の夜はワイルクの學園で講話をした。十八日の夕方から大畑ドクターの家に行つて夕飯の馳走になる。海の彼方の山に陽のあかあかと入るのを眺め故郷を偲んだ。夜はパイアの本願寺で講話をした。十九日の午前パイアの三枝開教使の案内でクラの療養所を見舞うた。先づラヂオで語り、次に男子の病室で、次に女子の病室で語り、一寸腰かける暇もなくワイルクに歸つた。

海をぬく四千尺の高丘の牧場ひろびろ雲雀なくなり。

山路をうねりうねりて登り行くシャポテンの丘に雲雀なくなり。

パイアの寺にて晝飯をよばれ、午後二時からワイルクの學園で日本佛教の特質と題

して特別講演をした。講演を終るとすぐにラハイナに車をとばし、ラハイナの東福寺ドクターの家にて夕飯をよばれ七時半から學園にて講話。零時半ワイアレに乗つた。田畑・福永二君が星夜の波止場に見送つてくれた。マウイの四日間に講演をすること六席十一回であつた。パンフレットは百八十冊ばかり持つて行つたのが悉皆賣れて終つた。或人はヒロの人は火山のやうに激しく燃立つが直に冷めやすい、マウイの者は一寸燃立たないが長くさめない。だから、貴方の感化もヒロよりマウイに永く残るといふてゐました。此の事の眞偽は後の年になつて決定されるだらう。

今朝早くホノルルに着く、玉代勢君等に迎へられて共樂館に着く。きのふ餘り自動車などに乗つて講演をつづけた爲か腹が張つて不愉快です。

今朝郷里の親友が死んだといふ電報がヒロに行つたのをヒロから轉電してきたのを讀んだ。先日來二度まで此の友人の夢を見たので變りがなければよいがと思つてゐたので、此の電報を見て感應道交といふことを味つた。今日は一日休んでカワイイに向ひます。ヒロの皆さんの健在を念じます。

(一九三三年三月二十一日)

カワイイからヒロへ

徳城さま

私達は廿日の夜の九時にホノルルを發つて廿一日の午前六時にカワイイ島のリフエに着きました。海上は至極穏かでした。大館開教使夫妻、内藤開教使、リフエ本願寺代表など多くの人々に迎へられ、セイサイドホテルにコーヒの饗を受け、十時頃からリフエの本願寺に着いた。宮崎開教使は先頃今村監督の葬禮の導師をしたハワイ第一の長老である。加賀生まれで越前に寺を有つて居る人である。日本人は箸を持つて食ふのは鳥の嘴で物をついばむやうであり、西洋人がフォークで物を食ふのは猛獸が爪で引掻く形である。此處に日本人と西洋人との性質の差異があると話されたのを面白く聞いた。午後大江開教使の訪問を受けた。宮崎・大江兩開教使は意見が合ぬらしい。宮崎氏も、ろくな開教使が居らぬと言ひ、大江氏もろくな開教使が居らぬと言つて居られる。夜本願寺にて彼岸會の講話をした。大館君の迎へを受け更けてから三十哩近

く距つたワイメアに着いた。新築の本願寺に参詣し暫くパーラで語つてホテルに着いたのは二時近くであつた。波音高く聞ゆる海岸の離れ座敷に静かな夢を結んだ。廿二日は晝の中は來訪者と語り夜は二十哩を距てるコロアの淨土宗の寺にて講話をした。此處の開教使は日野秀端といふ人である。終つてからポイビーチの緒方増雄君の家に泊つた。波の音を軒下のこぼろぎが綾どつてないてゐた。緒方君はビシッポ銀行の此處の出張所長をしてゐる。先年ワイメアの同君の家に泊つたことがある。此の家は銀行の役宅である。

廿三日には午前妻君の案内でラワイビーチガーデンに遊んだ。妻君はホルル大學の出身で此島の基督教女子青年會の幹事をしてゐる人である。歌が出来ました。

丈高きジンジャに沿うてとき色の花を見上げてただに驚く。

ジンジャといへば大和の茗荷ぐさその太幹のにぎりかぬるも。

川沿ひの崖に青々月に咲くナイトブリューメンシリーズを見る。

松の樹に高くからぬる蔦かづら日傘のごとき大葉をぞ見る。

老人がただ一人住むてふ庭園にいろいろの花の咲き匂ふかな。

草とりにハローといへばいらへせずふり向く顔のまкруなるかな。

とらの吠ゆるごとき音して岩間より潮の高く噴き出づるかな。

時をおきて高くふき出る潮を見てわたつみの意氣をおもひをるかな。

午後は又クイオロノ公園に遊んだ。歌が出来た。

園に入れば孔雀しづしづ芝生よりアイオンウッドの蔭に入りけり。

夜はマカウエリの昨年新築された東本願寺で講話をした。小さい建物だが、ブランチションのマネージャーが建てくれたのださうな。すんでからワイメアホテルに歸つて泊る。

廿四日午前マカウエリのプランテーションの主人に挨拶に行き、西南端の海岸のベークィングサウンドといふ處へ遊びに行つた。夜はハナベベから程近きワヒアワの曹洞宗の寺にて講話をした。毎日晝はお天気だが夜になると雨が降ります。カワイ島は暑いところだといふ評判ですが餘り暑くもありません。二人とも丈夫で居ます。ヒロを發つてから大分経つやうに思ひますが數へて見ると漸く十日です。遙に皆さんの健康を念じます。

(三月二十四日夜ワイメアホテルにて)

四月八日の朝

三月の十五日にヒロを發つてからマウイに行く。四日。カワイに七日、オアフに九日、其他船の中にて暮し、廿四日目に今朝再びヒロの人となつた。船が棧橋に近よると棧橋の上に私達を迎ひの爲め集まつて居られる澤山の人々が、顔は見えないが先生と呼ばれる聲がその人をさとしめて我家に歸つたやうな悦びを感じた。ホノルルで或方は貴方はどんな人にも胸を披いてつきあはるから貴方には特別の直弟子といふ者はなく近寄る者は皆御弟子といふ鹽梅ですなというた人があつた。まあそんなものですなと答へたが、さうあればよいのだが、やはり凡夫の愚さにはどうしても融けられないやうな感じのする人に遇ふこともある。どこに行つても寛ぐ気分にはなつてゐるが、矢張りその寛ぎ方の程度が色々あるやうである。マウイ、カワイ、オアフ、何處に行つても親切にして頂いたのだが、然し今朝ヒロに着いて船を出た時の感じは又特別のうれしさであつた。昨夜船に乗つてから餘りよく眠られなかつた。それは昨日ホ

ノルルを發つ時、見送りの方が掛けて下さったブルメリアの花のレイの香が室内に高く匂うてゐた爲めに眠れなかつたかと思つても見たが、矢張りヒロに歸るのがうれしかつた興奮の爲めであつたやうである。今朝棧橋に澤山の方に迎へられてああさうだつたなと氣がついた。熱心に迎へてくれられる人のあるのは嬉しいものだ。私がする分無限な旅をつづけても疲れないのは全く皆さんの意氣に力づけられるからである。大千世界に私ほど幸福な者はないと感ずることがしばしばある。如來さまの御慈悲は、私に對して特別に偏頗な愛を下さるやうな氣がする。親鸞聖人が「彌陀の五劫思惟の願をよくよく案ずるにひとへに親鸞一人が爲なりけり」と申されました御心持が殊更慕はるるのである。多くの人達と共に東本願寺のパーラに着いて雑談の間に徳城君が今日の新聞に一文でもいいから書いてほしいと申さるので簡単に所感を記しました。雨の多いヒロも今朝は陽が照つてゐる。相變らずマイナの囀りと鶏の歌とが賑うてゐる。今日は釋尊の降誕の聖日だ。遠くカレーや菜の花の咲き亂れてゐるルンピンデの春を偲ばせらるるのであります。

(昭和八年四月八日朝ヒロにて)

曉烏敏主要著作目錄

◎更生三部作

第一卷	更生の前後	金參圓
第二卷	獨立者の宣言	金貳圓五拾錢
第三卷	前進する者	金貳圓八拾錢

◎佛說無量壽經叢書

阿彌陀佛の生るまで	金壹圓
嘆佛偈講話	金壹圓貳拾錢
阿彌陀佛とその師との問答	金壹圓
阿彌陀佛の本願上卷	金壹圓五拾錢
阿彌陀佛の本願下卷	金壹圓五拾錢
三彌陀誓偈講話	金壹圓
阿彌陀佛の修行とその淨土	金壹圓七拾錢
本願成佛の成就の信心	金壹圓五拾錢
信心生活の種々相	金壹圓貳拾錢

9. 7. 23

◎曉烏敏 編輯 佛教聖典叢書

第一篇	佛涅槃經	林五邦譯	金四拾	錢
第二篇	大方廣華嚴經	林五邦譯	金拾	錢
第三篇	大乘起信論	林五邦譯	金拾	錢
第四篇	小乘經	林五邦譯	金拾	錢
第五篇	鷲峯經	林五邦譯	金拾	錢
第六篇	箭喻經	林五邦譯	金拾	錢
第七篇	蛇喻經	林五邦譯	金拾	錢
第八篇	蘇那檀	林五邦譯	金拾	錢
第九篇	外道問大乘我義經	林五邦譯	金拾	錢
第十篇	究羅檀頭經	林五邦譯	金拾	錢
第十一篇	羅檀頭經	林五邦譯	金拾	錢

曉烏敏 願主筆

慧

一定價ケ一年部金金壹拾圓錢

發行所

石川縣北安田郡 出城村

香

草

舍

電話松任局一八八番 振替金澤三六九八番

昭和九年七月十五日印刷 昭和九年七月二十日發行

ハワイの印象 奥附

定價金貳圓

(一八〇〇)

不許 複製

發行所

石川縣石川郡出城村 振替金澤三六九八

香

草

舍

著者 曉烏敏

石川縣石川郡出城村北安田

敏

印刷人

京都市烏丸通七條下ル西入

清

印刷所

京都市東九條山王町三八

所

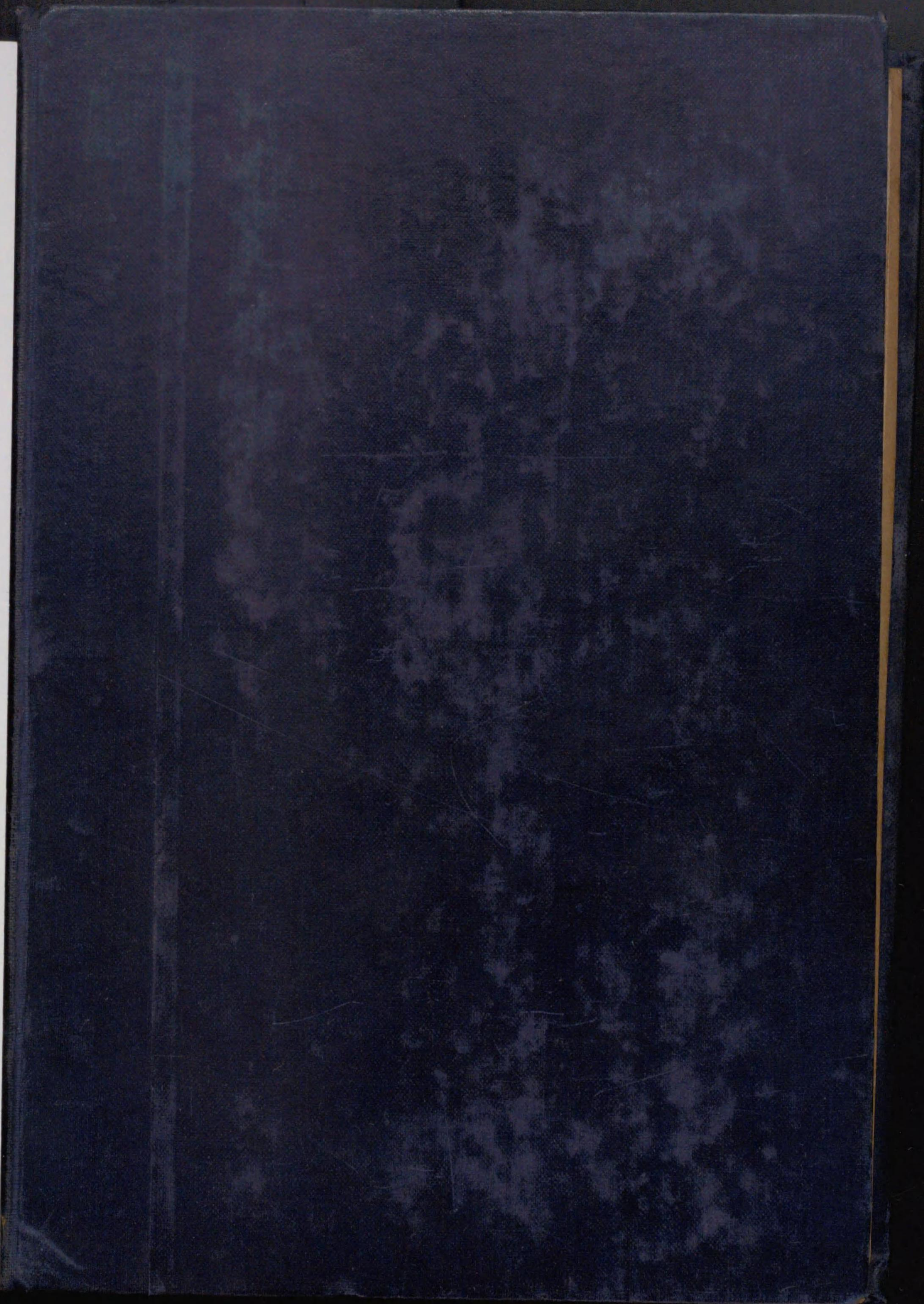
賣 賣 捌 捌 所 所

京都市東六條烏丸 振替大阪三九五〇七 東京市本郷區春木町二 振替東京八二一九

一 生 堂 書 店 森 江 書 店

Blank page with faint, illegible ghosting of text from the reverse side, enclosed in a rectangular border.

661
92

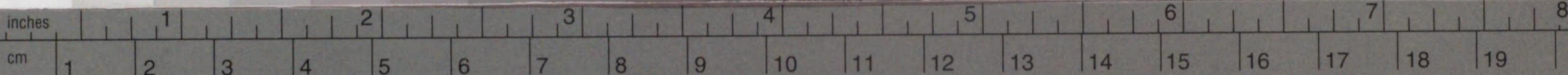


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

